

令和五年度 奈良県知事賞

税金とこれからの社会

室生中学校 三年 日樫 誉

僕の暮らしている町にも公共施設があります。近くの公園やグラウンド、体育館などがあります。このような公共施設というのは、僕達の生活にかかせない大切なものですが、提供するためには費用がかかります。それを国民が「税金」という形で負担して健全な生活を送るために公平に支え合っていくのに大切な仕組みとなっているのです。

僕がこれからの社会で特に気になっていることは国の財政です。テレビでは財政赤字だという言葉も耳にします。新型コロナウイルス感染症が5類になったとはいえ、ロシアウクライナ情勢による経済や原油価格と物価高対策などの国の歳出額が税収を上回る状態が続いているのです。そのため国債を発行して財源としています。これを公債金といいます。これはいずれ返さなければならない国の借金だそうです。

僕は正直不安な気持ちでいっぱいでした。

それに加えて僕の住んでいる奈良県の財政についても知りたいと思いました。地方公共団体では暮らしに結びついた公共サービスを行っていて、教育費、公債費、福祉保健費に多く使われていることが分かりました。特に使い道として僕達のような学校関係が多かった事に驚きました。このまま少子高齢化が進むと福祉保健費、医療政策費が上回って行くのではないかと予想できます。

日本は、人口に占める高齢者の割合が増加する高齢化と出生率の低下により若年者人口が減少する少子化が同時に進行する「少子高齢化社会」となっているのです。

これらの社会のために税と公共サービスのバランスについて考えることも重要です。

僕は今15歳ですがあと3年すれば選挙で投票ができ、税金の使われ方に興味を持ち、日本の将来を考えるいい機会になりました。

僕が成人し、社会でバリバリ働く頃には、少子高齢化がますます増えているでしょう。僕達若者が高齢者を支えて行くのですが、このままでは、若者の負担は大きくなる一方です。安心して暮らせる社会を作るために僕が今なにをすればいいのか改善していけるように考えたいです。税金について考えるということは、僕達の将来の暮らしにもつながっているからです。